

記 開結の表記について

漢字は「竝」と「燈」以外はほとんど新字を使用した。
 仮名づかいは新仮名づかいにした。
 この表の理由の「」内は訓読のもとになる漢文を記述した

頁 行	原文	訂正	理由、備考
無量義經第一 五頁 一行	仏国を浄め、	広く仏国を浄	「広浄仏国」
七頁 六行	見香を嗅ぐ	見香を聞く	「見色聞香」
一〇頁 二行	無相に	無相の相に	「無相之相有相身」
無量義經第二 一三頁 七行	否や。	不や。	「垂愍聽不」
一四頁 一行	此の法門	是の法門	「学是法門者」
一五頁 一〇行	輪廻し	輪回し	日相本による
一九頁 九行	事如何	事云何	「是事云何」
二〇頁 五行	真実にして	信実にして	「信実不虚空」
二〇頁 二行	所以は云何	所以は何ん	「所以者何」
二五頁 四行	能く一言	能く一音	「能以一音」
無量義經第三 三四頁 一〇行	此の法は	是の法は	「以其是法」
四二頁 一行	善男子未ば	善男子未だ	「未ば」では意味がない 日相本による。また「扶疏
四九頁 三行	鬱茂扶疏	鬱茂扶疏	」の「ふ」も日相本により 手へんにした。
四九頁 四行	名く。	号く。	「号不可思議功德力」
四九頁 六行	仏白して	仏に白して	通例による
五〇頁 七行	此語を	是の語を	「作是語已」

序品			
五五頁一二行	かくの如き	是の如き	「如是」
五七頁五行	八万人俱なり	八万人と俱	この頁以前の読みに統一
六九頁三行	珠を以て	珠をもつて	漢文に「以」の字がない
方便品			
八六頁二行	安祥として	安詳として	日相本による
九八頁一行	我は是れ	我は為れ	漢文「我為仏長子」
九八頁一二行	我当に	吾当に	漢文「吾当為汝」
九九頁七行	専ら	純ら	漢文「純有貞実」
一一二頁一〇行	以て	もつて	漢文に「以」の字がない
譬喩品			
一二五頁八行	如来の知見	の無量知見	「失於如来。無量知見」
一二七頁一二行	未来に無上	に於て無上	「不能於未来」
一二八頁六行	失えり。	失えり	偈頌のため、「。」は取る
一三一頁六行	我今天・人	吾今天・人	「吾今於天人」
一四〇頁一行	国邑	若し国邑	「若国邑聚落」
一四二頁九行	是の舎	此の舎	「此舎已為」
一六二頁二行	諸の宝物	衆の宝物	「以衆宝物」
一六四頁一行	是を以て	是れを以て	読みの統一のため
一六七頁一二行	解脱を得と名	名けて解脱と	ピタカの読みによる。
	く	為す	
一七〇頁七行	或は野干	有は野干	「有作野干」
一七〇頁一二行	「転腹行	「蜿」転腹行	漢文、日相品による
一七一頁一行	休足	休息	ただし、ピタカは
一七二頁一行	罹らん	羅らん	「無有休息」
信解品			「横羅其殃」
一九七頁一行	得るが如く	?	文章がおかしいように思う
薬草喩品			
二〇六頁二行	法を聞かんが	法を聴かんが	「而聴法」

二〇八頁一〇行	解り難ければ	悟り難く知り	「随宜說法 難解難知」の
化城喻品	難ければ	「難知」がぬけている	
二三八頁二行	ふべし。	偈頌のため、「。」は取る	
二三九頁一行	常の光に	「倍於常明」	
二四五頁一行	偈を以て	漢文に「以」の字がない	
二四七頁一行	以て	漢文に「以」の字がない	
二六一頁六行	今阿耨多羅	「今皆得阿耨多羅・・」	
二六六頁一行	宝所は近き	「宝处在近」	
二七五頁八行	という	表記の統一のため	
五百弟子品			
二七八頁五行	知しめせり	「能智我等」日相本確認済	
二九一頁一行	植え	「種仏善根」	
人記品			
二九五頁二行	此の念	「而作是念」	
三一四頁九行	此の法華經	「是法華經」	
法師品			
三一〇頁四行	当に此の經を	「当受持是經」	
見宝塔品			
三二二頁八行	充滿	「充 世界」	
		なお、「遍」の字を「	
		のかわりに時たま使用して	
		いるが、それは「」にか	
		えた。	
三三三頁一二行	又其の	表記統一のため	
三四二頁三行	即ち為れ	「則為疾得」	
提婆品			
三四三頁四行	我過去	「吾於過去」	
三四四頁二行	我当に	「吾当終身」	
三四五頁九行	我当に	「吾当為汝説」	

三五頁一〇行	徳不退転	得不退転	上段の漢文の誤字
勸持品			
三六二頁五行	獅子吼	師子	『日相本』による
安樂行品			
三八九頁一行	圍繞せられて	圍遶せられて	「圍繞說法」日相品も同じ
涌出品			
三九三頁七行	此の經典	是の經典	「是經典者」
三九八頁一行	植え	種え	「種諸善根」
四一四頁三行	好んず	好んで	ピタカによる
隨喜功德品			
四五四頁四行	及び象馬	及び象馬	「及象馬車乘」
四五八頁六行	喜う	喜う	「不可喜相」日相本確認済
法師功德品			
四七五頁八行	遍淨	淨	「光音 淨天」
四七六頁二行	光音遍淨天	光音 淨天	上段の漢文、日相本による
不輕品			
四八九頁三行	此の比丘	是の比丘	「而是比丘」
四八九頁六行	汝等当に	汝等皆当に	「汝等皆当作仏故」脱字
四八九頁一行	我等が為に	我等が与に	「而与我等」ピタカ確認済
四九二頁一行	以何	云何	「於以云何」
神力品			
四九八頁六行	所に於て	処に於て	「滅度之處」
四九九頁四行	遍く	く	表記の統一のため、日相本
四九九頁七行	遍照	照	上段の漢文、右に同じ
妙音菩薩品			
五三二頁五行	遍照	照	上段の漢文、右に同じ
五三二頁四行	東方八万	東方百八万	「照東方。百八万億」
普門品			
五五六頁一行	是の法施	此の法施	「受此法施」
五六一頁七行	風化	風火	「能伏災風火」

五六二頁	八行	(脱字)	品	「觀世音菩薩品」
嚴王品				
五七四頁	八行	此の法華經	是の法華經	「說是法華經」
五八四頁	一行	植え	種え	「種善根故」
勸発品				
五九二頁	二行	此の陀羅尼	是の陀羅尼	「得聞是陀羅尼」
五九六頁	五行	亦復不熹	亦復不喜	日相本による
		開結と日相本との相違		
		開結では勸発品で、「熹」を「ねがう」と訓読させているところが二箇所ある。「所熹見身」(開結五九一頁六行目上段、九行目下段)と、「亦復不熹」である。しかし、日相本では「所熹見身」は同じでも「亦復不熹」は異なる。		
觀經				
六〇四頁	四行	七支地を支へ	七支地をへ	日相本による
六一二頁	三行	正信・正憶	正心・正憶	「正心正憶」
六一四頁	二行	常に過去	常に夢に過去	「亦常夢見」の「夢」が脱
六二〇頁	四行	七賢莊嚴	七宝莊嚴	「七宝莊嚴」
六三〇頁	〇行	草に著く	艸に著く	日相本による
六三一頁	一行	菩薩更に	菩薩復更に	「普賢菩薩。復更為説」
六三一頁	五行	汝今当応	汝今应当	「汝今应当」
六四〇頁	三行	涅槃を印	涅槃の海を印	「印涅槃海」
六四八頁	三行	勉め	勤め	「次当勤修」